

S G H国内フィールドワーク（水班①）

①協和機電工業

7月26日（水）に35名の生徒が協和機電工業株式会社を訪問し、水処理操作や海水淡水化システム、浸透圧発電などについて学習しました。また、中国やベトナムでの水処理業務の内容や現地の様子など写真やスライドを使って説明をいただき、長崎県から世界に向けて多くの取り組みを展開されている企業の規模の大きさを体験することができました。体験実習では凝集剤を用いた水の浄化について生徒たちが実際に体験させていただき、これから行う課題研究に向けて意欲も高まったようでした。二班に分かれて行なった様々な工程の工場見学では、一つ一つの作業を丁寧に説明していただき、普段見ることのできない貴重な体験をすることができました。最後は、生徒から活発に質問が出るなど、時間ぎりぎりまで充実したフィールドワークとなりました。



②長崎大学環境科学部（講義・研究紹介「研究するのは何のため？」）



7月28日（金）に29名の生徒が長崎大学環境科学部を訪問し、井口恵一朗教授と村瀬偉紀院生から、「研究するのは何のため？」というテーマで講義をしていただきました。井口先生からは、研究の原動力は好奇心であり、「何だこれは！」という感動を伴う発見が科学であるということについて、ご自身の実体験や科学者でもある芸術家など、様々な興味深い例を挙げながらわかりやすく説明していただきました。村瀬さんからは、現在取り組んでおられる魚の耳石の研究に関して、普段の活動内容や研究からわかること、またその活用など、実際の研究について具体的に話していただきました。講義後には、生徒たちの多岐にわたる様々な質問にも丁寧に答えていただきました。特に、自分たちの研究の「何を」「何のために」「どんな方法で」に関して、条件が異なれば、調べる対象や方法が変わるということを指摘され、生徒たちはより深く考え、研究する必要性を感じたようでした。

